

# 八戸工業大学 同窓会報

## 第3回 同窓会総会開催

来る10月18日(土)、第3回八戸工業大学同窓会総会を開催いたします。

同窓会総会は昨年と同様に第一部・講演会、第二部・同窓生の集う会の2部構成で行われます。

第一部の講演会では、講演者として「日本鉄道建設公団設計技術室調査役」の服部修一氏をお招きして、「東北新幹線建設の現状・八甲田トンネルを中心として」という演題でご講演していただきます。

第二部の同窓生の集う会では吹奏楽部による演奏会や「映像で見る 八戸工業大学の発展コーナー」など、楽しいイベントを用意しております。

また、当日は現職の教職員のみならず、すでに退職された先生方もご参加してくださいませので、同窓生の皆様は友人をお誘い合わせの上ふるってご参加ください。

さらに10月18日(土)と19日(日)は、八工大の学園祭も行われております。ご家族とご一緒に、お出でになられても楽しい休日をご過ごせるかと思えます。

同窓会への参加申し込みは、同封の「同窓会参加通知書&会員状況(異動)届」にて、10月10日までにご連絡ください。また、ご質問等につきましては、各学科事務局までEメールもしくは電話にてお問い合わせください。

## 支部活動

去る5月17日、仙台市内において「第2回東北支部同窓生の集う会」が開催されました。

当日は「同窓生の集う会」に先立ち、公開講座「エネルギー・環境に関する次世代テクノロジ」が開催され、生物環境化学工学科の岡村隆成教授による「木くずからエネルギーを作りだすくぱイオマスエネルギー」と電子知能システム学科の藤田成隆教授による「次世代型知能ロボットに向けて」の二つの講演が行われ、同窓生と共に約30名が熱心に聴講なされました。

引き続き開催された「集う会」には、高橋学長をはじめ各学科の先生方が多数出席し、高橋学長から本学の現在の様子やこれからの展望が話され、参加者達もそれぞれの近況を語り合うなど盛会のう



第2回 東北支部同窓生の集う会 (5月17日、仙台市)



北海道支部設立総会 (6月14日、札幌市)

第4号  
3月・9月発行  
八戸工業大学  
同窓会本部事務局  
TEL  
0178-25-8027  
FAX  
0178-25-6183

ちに終了しました。  
また、6月14日には札幌市で同窓会北海道支部の設立総会が開催され、支部長に永田敬久氏(土木工学科)／昭和55年(3月卒)を選出し、役員人事と規約が承認されました。この日集まった同窓生約40名は、増田陽一郎学長補佐や教職員らと和やかに歓談し、旧交を暖めました。

# エネルギー工学科 OB会通信

## エネルギー工学科OB会 親睦会を開催

第四回となるエネルギー工学科OB会親睦会は八月二日(土)午後六時から八戸市の八戸グランドホテルを会場に、同窓生や教職員など七十名以上が参加し開催されました。

今回は二部構成で行われ、第一部の「エネルギー工学科近況報告会」では、エネルギー工学科・生物環境化学工科学科長の岡村先生から「最近の学科動向」の演題で、現在の大学の様子や新学科開設の背景について説明があり、続いてOB会顧問の村中先生から「エネルギー工学科と学科同窓会の歩み」の演題でOB会(同窓会)設立から現在に至る活動についての紹介がありました。

第二部の「親睦会」では、荒谷会長の挨拶、八戸工業大学学長の高橋先生からの祝辞に続き、村中先生の乾杯で懇親に入り、友人同士や恩師を囲んで旧交を温めたり、世代を超えての話に華を咲かせたりしました。また、大画面に映された「八戸工業大学の歴史」や豪華な景品の当たるゲームを楽しむなど、時間の経つのも忘れ大いに盛り上がり、最後に全員で校

歌を斉唱し記念撮影を行い、次回の再会を誓い合い終了しました。

### 親睦会に参加して

川端圭司(第十三期生)

私はエネルギー工学科を平成十年三月(第十三期)に卒業後、企業勤務を経験を経て、現在八戸工業大学機械システム工学専攻の大学院学生として勉学に励む毎日です。そんな折、OB会から、「エネルギー工学科卒業生写真集」と共に親睦会の案内が届き、今回初めて参加しました。

八戸市に新幹線が開通(平成十四年十二月)して初めての八戸市で開催するエネルギー工学科OB会であり、私の同期の人も大勢出席しているかと期待して参加したのですが、十三期の出席者は私を含め二人でした。「なんともさびしい出席率である・・・。」それでも二人で古い記憶を辿り「あいつは何しているかな?」とか思い出しながら酒を飲み昔話に華が咲きました。「帰ったのは朝四時だったような・・・。」  
何だかんだと言いながらも楽しい時を過ごす事ができ、次回開催も是非参加したいと考えています。その時は十三期の皆さん全員と会えることを願っています。



第四回 八戸工業大学エネルギー工学科OB会 親睦会  
平成15年8月2日(八戸グランドホテルにて)

最後に一言、「余興のビンゴ大会で私に一等大当たり。ビデオ&DVDプレーヤーが当たった・・・ラッキー」

### ホームページを開設

エネルギー工学科OB会のホームページを開設しました。

内容は会長挨拶、会則のほか六月に発行した「エネルギー工学科卒業生写真集」や、八月二日に開催された親睦会の様子が画像付きで紹介されています。是非ご覧いただいで活動へのご理解とご協力をよろしく願います。

なお、住所変更や各種問い合わせ等にもご利用下さい。ホームページは八戸工業大学トップページ内の同窓会情報、エネルギー工学科同窓会(<http://www.pow.hi-tech.ac.jp/pob/>)をご覧ください。



# 建築工学科 拓北会

## 「建築」工学科の今後

建築工学科 学科長、建築工学専攻 専攻主任 教授

熊谷 浩二 kumagai@hi-tech.ac.jp



同窓生の皆さん始めまして、熊谷浩二です。私は、今年平成15年度4月から建築工学科の学科長を務めております。初めて聞く同窓生の方のため、簡単に自己紹介させていただきます。

私の所属は環境建設工学科（平成12年入学生までは土木工学科）で、地盤工学・基礎構造の分野が専門です。昭和22年8月仙台生まれ、昭和48年3月東北大学工学部土木工学科を卒業し、前田建設工業株式会社に入社しております。平成11年4月に前田建設工業株式会社技術研究所から八戸工業大学に赴任しております。建築工学科の今後の展開を図るため、微力ながら努力したいと思っております。また、同窓生の方々のご支援をお願いいたします。

最近では、最新の建築工学科の動き等を紹介させていただきます。

### 1. 当学科のデザインコースとエンジニアリングコース

現在は学生定員95名になっており、各学年とも約80名が在籍しております。また、3年生に3つの専門コースを設けました。①デザインコース、②エンジニアリングコース計画系、および③エンジニアリングコース構造系です。知識の習得だけでなく、学生一人一人の能力を発見し伸ばす教育を目的にしたコース制で、今年度から始まりました。

### 2. 大学における建築教育の課題と同窓生

建築に限らず日本の大学教育では、社会の要求や学生の要請に配慮するシステムの不備を容認する傾向がありました。しかし、教育や資格等のグローバルスタンダード化の波とともに、教職員および学生双方が満足する教育のためとして、社会に対し独自の教育目標や教育成果を公開・周知することが大学側に求められています。

2000年に技術者教育の内容について日本技術者教育認定基準（JABEE基準）が定められ、大学教育を審査する体制ができました。この制度は、受審する大学が具体的な計画を立案・実施して審査を受けるというところは、ISO9000sの大学教育版と思っております。

この中の一つに、「伝統、資源および卒業生の活躍分野等を考慮して、特色ある学習・教育目標が設定され、公開されていること。」があります。

この中の一つに、「伝統、資源および卒業生の活躍分野等を考慮して、特色ある学習・教育目標が設定され、公開されていること。」があります。

この中の一つに、「伝統、資源および卒業生の活躍分野等を考慮して、特色ある学習・教育目標が設定され、公開されていること。」があります。

この中の一つに、「伝統、資源および卒業生の活躍分野等を考慮して、特色ある学習・教育目標が設定され、公開されていること。」があります。

この中の一つに、「伝統、資源および卒業生の活躍分野等を考慮して、特色ある学習・教育目標が設定され、公開されていること。」があります。

この中の一つに、「伝統、資源および卒業生の活躍分野等を考慮して、特色ある学習・教育目標が設定され、公開されていること。」があります。

この中の一つに、「伝統、資源および卒業生の活躍分野等を考慮して、特色ある学習・教育目標が設定され、公開されていること。」があります。

この中の一つに、「伝統、資源および卒業生の活躍分野等を考慮して、特色ある学習・教育目標が設定され、公開されていること。」があります。

この中の一つに、「伝統、資源および卒業生の活躍分野等を考慮して、特色ある学習・教育目標が設定され、公開されていること。」があります。

## 大学校舎内が全面禁煙に！

7月1日から本学の校舎内では全面禁煙になりました。教職員や学生はもとより、来客の皆さんにも建物内での禁煙に協力していただいています。止む無く喫煙す

る場合のために屋外に喫煙場所が用意されています。タバコの煙に有害物質があり、しかも吸う人が吸い込む煙（主流煙）よりも火のついた先から出

る煙（副流煙）に多く含まれることが知られています。5月1日に施行された健康増進法の中で、学校など多数の人が利用する施設では受動喫煙（他人の煙草の



煙を吸わされることをいう。）を防止する措置を講じるよう求められ、本学では、次代を担う大学生を育成する教育的な配慮から、禁煙原則に立脚した徹底した対策に取り組んで

います。大学構内に入ると、『あなたの煙草が周りの人の健康を損ないます。建物内の禁煙にご協力下さい。』と書かれたポスターや立て看板が目につきます。喫煙マナーを遵守するため全学的な運動を進めているところです。

卒業してから感じたこと、あるいは後輩と接した時の感想など、いい点も改善点も、機会のあるときに当学科の教職員に伝えていただければ幸いです。とくに、学科の特色は、卒業して社会に出ている方のほうが確に、あるいはなんとなく感じておられるような気がしております。

### 4. 卒業した人々のシンクタンクになりたい

先ほどのJABEE基準でも、卒業した方々や外部の方々の支援・了解を得て教育内容を改善していくよう定められています。今後は、支援を受ける形になる教職員側も、同窓生一人一人へのアフターケア？あるいは積極的な協力者となれるよう努力していきたいと思っております。分野によっては、橋渡し役のみになるものも出てくると思えます。教職員・在学生・同窓生の輪が必要に応じて広がっていくことを目指したいと思っております。

その一環としても、大学創立30周年事業で計画されている「地域メディアセンター」への寄付をお願いいたします。

最後になりましたが、同窓生一人一人のご活躍をお祈りいたします。

熊谷 浩二

建築工学科 学科長、建築工学専攻 専攻主任 教授

kumagai@hi-tech.ac.jp

熊谷 浩二

# 機械情報技術学科 蒼峰会だより

今回の機械情報技術学科における記事は、トピック  
スとして今年度からスタートした『モデルロケット製  
作』と、学科の先生方から加賀拓也、小嶋高良、宮川  
孝の3人の先生に現況報告をお願いしました。

## 手作りモデルロケットの 打ち上げ競技会

機械情報技術学科 体験学習  
ラインアップ 完成

6月5日、八戸工業大学のグラ  
ンドで、手作りモデルロケットの  
打ち上げ競技会が行われた。機  
械情報技術学科の2年生が2人1  
組となり製作した、全長40cmのロ  
ケット50機が次々と大空に舞い上  
がり、50mの高さに達すると、自  
ら放出したパラシュートを開いて  
ゆっくりと舞い降り回収された。  
その度に大きな歓声がこだまし  
た。1度に5機のロケットを打ち  
上げ、そのうち最も滞空時間の長  
いロケットが勝ち残るといいうル  
ルで、予選、準決勝、決勝が行わ  
れ、優勝ペアが決定された。

この競技会は、多くのマスコミ  
で取り上げられた。日刊工業新聞、  
デーリー東北、東奥日報、NHK  
テレビ、青森テレビ、八戸テレビ、  
RABラジオ、BeFMラジオであ  
る。優勝ペア渡邊圭介君と若林諭  
君の2人は、BeFMの特別番組の

取材を受け、一躍有名人になった。

ロケットの材料は、カレンダー  
の紙、板、ゴミ袋、つり糸、つま  
楊枝など身の回りにあるものばか  
りである。燃料以外には市販の部  
品は一切使われていない。「真に  
創造性のある技術者は、何でもな  
いような素材から働きのあるもの  
や複雑な機械を作り出す。」とい  
う機械情報技術学科の信念に基づ  
いている。

この度、2学年にモデルロケッ  
ト製作打ち上げが加わったことに  
より、機械情報技術学科の1学年  
から3学年までの体験学習ライン  
アップが完成した。1学年の「エ  
ンジン分解組み立て」と「パソコ  
ンの部品からの組み立て」、2学  
年の「モデルロケット製作打ち上  
げ」、および3学年の「創作ロボッ  
トコンテスト」である。1学年で  
機械技術(ハード)と情報技術(ソ  
フト)の基礎を修得し、2学年で  
ものづくりを体験し、3学年で創  
造的設計とデザイン能力を開花さ  
せるといふ一連のプログラムであ  
る。八戸工業大学機械情報技術学

科の学生は、将来のものづくり日  
本を担う、ハードに強くソフトを  
兼ね備えた創造性のある技術者を  
目指し、楽しく学習している。

## 加賀 拓也

八戸工業大学機械工学科、産業  
機械工学科の同窓生の皆様、忙し  
さにかまけて大変ご無沙汰致して  
おりますが、まずは失礼をお詫び

致します。さて、皆様の名実共  
なる代表者の、第一期生、下館政美  
様にはいろいろなお仕事：大学と  
しては同窓会理事、科としては蒼  
峰会(旧機械工学科同窓会)の  
まとめ役をお願いしており、先  
月、7月5日も北海道同窓会支部  
立ち上げのため本科の佐藤松雄教  
授たちと共に参加下さいました。  
また JABE(日本技術者教育認定

機構)の受審をきっかけとし、学  
外審査委員として本科の教育に対  
して意見を述べてもらっておりま  
す。改めて下館様はじめOBの皆  
様に深く感謝申し上げます。

ところで、先月、7月下旬に、  
本学主催の平成15年度専修免許認  
定講座(大学院の授業科目受講に  
より必要単位を取得出来る)出席  
者の懇談会が市内のホテルで開催  
され、出席しました。参加者の中  
に平成3年度卒業のOBがおり、  
私と同じテーブルでありました  
が、顔がわからず彼の同僚の方に  
知らされるまで山崎雅和さんだと  
はわかりませんでした。担任は木  
村克彦先生であったそうですが、  
大変失礼してしまいました。OB  
の皆様、加賀はこの調子ですので、  
どこかでお会いしたらM科卒の○  
○ですと、気軽に声を掛けてくだ  
さい。

長雨なる異常気象のもとで。

## 「出会いと別れ、そして再会」

小嶋 高良

皆さん、お元気ですか？私も八  
戸工業大学に勤務して27年目を迎  
える歳になりました。私の所属も、  
発展的廃科になった産業機械工学  
科からもう一つの機械系学科の機  
械工学科へ、そしてIT時代の流  
れを背景に改称した機械情報技術  
学科へと変わってまいりました。  
その間に、たくさんの卒業・同窓  
生の皆さんとの出会いと別れを重



手作りモデルロケットの打ち上げ競技会のようす

ねてまいりました。

独身の頃、アパートを訪ねてきては夜遅くまで歓談した歳の近い卒業・同窓生の皆さん、お変わりありませんか？ 新婚の頃、女房の料理を美味しいと食べさせられた卒業・同窓生の皆さん、奥さんの料理は美味しいですか？ 子どもが小さい頃、自慢？の子どもの一発芸やピアノを無理やり見せられ、聞かされた卒業・同窓生の皆さん、子どもが生れ、私と同じように、親ばかになっていませんか？ コンパの席で、大いに歓談し、ともにだみ声で歌い、杯を交わした卒業・同窓生の皆さん、お元気でですか？ 私も弱くなりました！

そんな卒業・同窓生の皆さんとご縁から、人生の中で最も大切な祝賀の席の媒酌人の大役も、幾度となく務めさせていただいて参りました。弱冠32歳での初めての媒酌人。知らないということは怖いもので、妻も私も右往左往。今思えば、恥じ入ることの連続でした。

でも、そんな繋がりから、年賀はがきを交換させていただいている卒業・同窓生の皆さんは数限りありません。

そんな出会いと別れ、そして再会を、これからも永遠に続けて行きたいものだと思います。皆さんと再会できる日を楽しみにしております。

宮川 孝

平成15年より再び機械情報技術学科で微分積分、線形代数を担当することになりました。熱力学、蒸気工学、空気調和、伝熱工学で記憶の人がいれば幸いです。

現在、学生部次長として就職開拓の役を担っております。

少子化、中国での自動車の生産、コンピュータソフトの生産と国内の企業は、独創的技術を持たなければならなくなってきており、そのために、産学連携の動きも活発となってきました。さらに、正規の社員を減らして、パート、派遣業者の導入が次第に増加しています。このような状態にありますので、卒業生の皆さんの職場における状況、就職に関する情報提供が必要になってきています。求人に関する情報があればぜひ連絡ください。またUターン等の希望があるときは相談に応じますのでよろしく願います。

私は現在、燻煙乾燥木材に関する応用研究を行っています。低コストのため、材料を現地乾燥し無公害の固定化された材料とし消費者（日本国内、中国）に供給することを目的としています。

インターネットで燻煙乾燥木材を検索してみてください。

それでは、これからの人生、前向きに、地球の環境を考えて頑張ってください。

# 電子知能システム学科 水交会ニユース

## 子どもたちに ロボットの面白さを！

電子知能システム学科では、小松崎教授及び横地弓夫助教授を中心に小学生から高校生を対象にしたロボット体験プログラムを準備しています。

青森県三戸町教育委員会が主催した「おもしろ工房」では、町内の小・中学生25人に対し赤外線センサーを搭載した4足歩行ロボットの製作を指導しました。おもしろ工房は、6月から7月にかけて計4回にわたりに行われました。初日はマイコンを使わない簡単な四



角のロボットを作りました。知能ロボットを用いたサッカーゲームや地雷探査ロボットアドバンスの操作は子どもたちに大人気となり、無線で知能ロボットを自由に自在に操作していました。さらに、本学主催のオープンキャンパスでは、高校生を対象に地雷探査ロボットヘリコプターや4足歩行ロボットの製作を実施しました。高校生を対象とした体験学習やインターネットでも同様のプログラムを実施しています。



ロボットづくりを通じて子どもたちに電子・電気工学へ興味を持ってもらい、技術の高度化する社会に対応できる人材を育成していきたいと考えております。

— お知らせ —

電子知能システム学科教授十文字正憲先生が平成15年8月31日付で退職されました。十文字先生は、東北大学大学院博士課程修了後、昭和51年4月に本学電気工学科へ就任され、27年の長きにわたり本学の教育・研究の充実と発展にご尽力なされました。また、この間に世界最大出力（200ノバルス）の高出力可変波長レーザや、静電気によるやませ霧消去装置などを開発されました。さらに、著書・論文は高い水準にあり、質の高い業績は多くの者の認めるところであります。

# システム情報工学科 うみねこ会ネットワーク

## ● うみねこ会発足

平成15年度よりシステム情報工学科同窓会として「うみねこ会」が発足しました。本学では、全学の同窓会の他に各学科の同窓会が存在し、うみねこ会はシステム情報工学科の卒業生が主体となって運営していきます。会長は本学図書館勤務の齊藤克治君、副会長は遠藤睦君、会計は服部純子さんと船場真由美さんです。今後、役員および各幹事による幹事会において運営方針等を決定していきます。

会長 齊藤 克治  
副会長 遠藤 睦  
会計 服部 純子  
船場 真由美

## ● 齊藤克治君 本学の図書館・情報事務室に勤務

システム情報工学科1期生の齊藤克治君が平成15年度4月より、本学の図書館・情報事務室に勤務することになりました。齊藤君は、書記として図書館および本学ホームページの運営等に関わる業務を行っています。

### ・「齊藤君より一言」

「本学に就職してから学生時代と違うのは、生活スタイルが変

わったこと。今まで通っていた大

学に、通学でなく出勤ですから、とても不思議な感覚です。ただ、それ以外のことを考えると、昼食は学食ですし、サークル活動の方にも参加していますので学生時代と変わらない事が多いです。

後に、私たちシステム情報工学科の同窓会を開催しようと思っています。初めての事だらけで戸惑いが多いなか、たくさんの同窓生の支えが必要です。開催の際は、全員が集まったら非常にうれしく思います。」

## ● 栗原先生、貝守先生 システム情報工学科へ

平成15年度より、システム情報工学科へ機械情報技術学科から栗原教授および貝守助教授が異動となりました。システム情報工学科は、始めから教員の人数が少なかった上に、奈良久教授が平成14年度をもって退職されたため人数的にも少なくなっていました。そこへ、栗原教授・貝守助教授の両先生が異動となり、システム情報工学科に新しい戦力が増強されました。

### ・「栗原教授より一言」

「この4月に機械情報技術学科

(旧機械工学科) からシステム情報工学科へ学内移動しました。大

学へきて6年目。だいぶ慣れてきたところですが、改めて初心を思い起こしております。どうぞよろしくお願いいたします。企業の研究所におりましたころは、コンピュータ応用システムの研究開発を数多く手がけました。工科ではその経験を活かして、これからのコンピュータシステム技術やアプリケーション技術の教育と研究に努めてまいります。また本学の研究成果を知財化する窓口となっている(財)青森県工業技術教育振興会「知財づくり工房」も担当させていただいております。研究や特許のことなどで卒業生の皆様とも交流できることを楽しみにしています。」

### ・「貝守助教授より一言」

「情報科学は、様々な科学に必要不可欠なものとなっていると思います。私の専門とする生命科学も、例外ではなく、情報科学との結びつきが大きくなっています。とりわけ、遺伝子情報を研究する人にとっては重要です。様々な生物の膨大な遺伝子情報を整理し、活用するためにはコンピュータの助けを借りなければなりません。私はヒドラという小さな動物を使って発生・再生の研究をしています。将来、これに関わる遺伝子の同定なども研究したいと考えて

います。

情報科学の面白さ、重要性、社会性など学生と一緒に学び、研究していくつもりです。「情報は難しい」と考える学生にも、わかりやすい方法を探したい。これが夢です。」

## ● 学科設備更新

平成15年度より多くの学科設備が更新されました。

システム情報工学科の学生専用パソコン演習室として利用

されてきたXラボは、平成15年度よりサイバラボとして生まれ変わります。場所は旧第2パソコンラボ(I104)へ移動し、パソコンの台数も100台に増強しました。また、WindowsNTからWindows2000にバージョンアップし、VisualStudio.NETやMS-OfficeXPも導入されました。さらに、容易にWebでのアニメーション等を作成できるMacromediaのFlashMXを全台にインストールし教育効果の向上を目指していま



ネットワーク実験に使用する応用実験室!!

す。

また、応用実験室は以前の基礎実験室（I202）から独立し旧Xラボ（I203）へ移動しました。応用実験では主にネットワーク実験を行うため配線が複雑になりますが、電源やネットワークの配線は床下に収納できるようになっています。

さらに基礎実験室（I202）では、7月にエアコンが導入され快適な環境で実験や演習が出来るようになりました。

### ● 小玉研誕生

平成15年度より情報棟1階I110に小玉研究室が誕生しました。小玉助手は本学電気工学科（現電子知能システム学科）出身でシステム情報工学科の松坂教授の下で学位を取得しました。小玉研究室ではネットワーク構築を主な研究テーマとしてルータやスイッチを使った研究や、Javaを用いたロボットで動きを予測する研究などを行っていく予定です。

### ● 佐々木さん二高へ

平成12年度よりシステム情報工学科事務職員として3年間学科を支えてきた佐々木光江さんが八戸工業大学第二高等学校へ異動となりました。平成15年度からは新しく福原町さんが佐々木さんに代わり学科の事務職員になりました。

## 環境建設工学科 シビル会

### 私立大学は2校のみ認定 JABEEが認定 環境建設工学科 教育プログラム

このほど、「日本技術者認定機構（JABEE）」に認定を申請していた本学科の教育プログラムが、認定基準を満たしているとして評価され、土木分野では東北の大学で唯一認定を受けた。今回認定された他の7大学（北海道大・金沢大・群馬大・立命館大・鳥取大・熊本大・高知高専専攻科）の内、私立大学は本学と立命館大学の2校のみであった。

国際化の流れの中、理工農系大学の技術者教育プログラムの認定

機関として平成11年にJABEEは発足したが、本学科は一昨年試行審査を経験し、本審査受審のため、昨年7月末460ページからなる自己点検書を作成、土木学会に送付した。11月12日、13日の両日、土木学会の6名の審査チームにより、プログラム関係者・学生・卒業生・教員との面談や関係資料調査、教育施設・設備の視察などの厳しい実地審査が行われた。その結果、本学科の教育プログラムは、基準を十分に満たすプログラムであると評価され、去る4月15日、JABEEの理事会で正式に認定された。

教育プログラムでは、学生と教職員双方が納得した教育改善活動



が要求されている。審査では、①「良き技術は良き人格から生まれる」という建学精神に基づいた地域密着型の教育研究活動は、学生の意欲を高め、教育目標の達成度を向上させていること、②独自のテキスト作成やナイトスクールなど、教育の工夫と優れた学生支援策、③授業の自己点検、学生による評価など、優れた教育点検システムを構築していること、④学生と教員間のコミュニケーションが良好であり、学生の満足度が極めて高いこと、⑤教育施設・設備の充実、などに対し非常に高い評価を受けた。一方、学習・教育目標の継続的改善、教育プログラム修了者全員の学習・教育目標達成を継続的に証明する手法や学習保証時間を満足する仕組み作り、などについてはさらに改善に向けた努力が望ましいと指摘された。さらに、長期間にわたり審査の準備に取り組んだ結果、この過程で教員の教育に対する大きな意識の変化があったことも大きな収穫と言える。

環境建設工学科長  
庄谷 征美（教授）

### キーワード・・・ JABEEの認定

大学などの高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかを外部機関が公平に評価し、水準を満たしているプログラムを認定する専門認定制度です。網羅的な基準として①学習・教育目標の設定と公開、②学習・教育目標の達成度の評価、③教育環境、④教育手段、⑤教育改善、⑥目標項目を設定している。さらに、化学、機械などの16分野ごとに個別項目を設けて審査する。また、現在文部科学省において、JABEE認定プログラムの修了生が技術士を取得する場合、その第1次試験を免除する方向で検討が進められている。さらに、JABEEが国際的な相互認定の協定（ワシントンアコード）に正式加盟することにより、国際水準の教育を受けた学生（技術者）であることの質的な保証となる。

今後、他大学との競合の中で土木系学科として歴史を刻んでいくためには、何よりも学生にとり魅力ある、そして教育力に富む教育プログラムとなるよう、継続的な改善を図っていくことが重要と考えている。

また、今回の認定は、環境建設工学科の学生や教職員、卒業生（土

**本学OBの教員2名が  
「教頭」に任命される**

青森県立青森工業高等学校教頭  
浅利 能之  
電気工学科／昭和52年3月卒



この春、県立青森工業高等学校「教頭」の辞令をいただいた。しかし、教壇に立って授業をするのではない。青森県教育関係職員録2003年版に教頭として記載されているものの括弧付で（充主任指導主事）となっている。実際の仕事場は、青森県教育長県立学校課で、学校教育に関する様々な指導、高校の改革や整備計画・収容計画などを担当している。さらに、兼務で青森県商工労働部ITER（国際熱核融合実験炉）誘致推進室の「総括主幹」も拝命しており、現在4カ国で綱引きをしているITERの誘致のため、外国人研究者の子供たちの教育環境整備を目的とした、幼稚園から高校まで英語で授業をするインターナショナルスクールの設置構想も担当している。

大学で学んだ工学や教育そのものが渾然一体となって、大学時代に着火してもらった火が、今の私の「生きる力」になっている。母校に感謝、感謝である。

**北海道島牧郡島牧村立**

島牧中学校教頭

菊池 勉

電気工学科／昭和61年3月卒



母校八戸工業大学から寄稿の依頼を受けました。何を書いたらよいか迷いましたが、教員になろうと思っただけのことです。地元北海道に戻り待望の教員になって18年、今年の人事異動で教頭に任命されました。校長から39歳の教頭は、北海道の公立小中学校の中で一番若いといわれ驚いています。今学校をめぐる環境は様々な問題を抱え大変ですが、大学時代に学んだことを時々振り返りながら頑張っています。

後輩の皆さん、失敗を恐れず何事にも意欲をもって挑戦して下さい。そこからきっと何かを得るはずです。

**「東京青森県人会」を  
本学が支援**

このほど、本学は、東京青森県人会の賛助会員として同会を支援することになった。この会は、青森と東京を結び郷土の発展に寄与することを目的に設立されたもので、青森県の市町村をはじめ企業・団体・個人などが主な賛助会員となっており、活動を展開している。「東

**八戸工業大学地域情報  
メディアセンター建設  
寄付金へのご協力をお願い**

八戸工業大学同窓生 各位  
本学は、創立30周年・大学院完成記念事業の一環として、キャンパス内に「八戸工業大学地域情報メディアセンター」を、数年後を目途に建設することといたしました。

このセンターは、現在の大学に求められている地域貢献を目的に、図書館機能並びに各種メディアによる情報発信等の活動拠点として、大学院、学部の学生の教育と研究活動を更に高めるとともに、卒業生、市民の方々にも有効な施設とし、「夢の実現を創造する広場」として建設されるものです。

この事業を実現するため、資金確保に向け学校法人八戸工業大学をはじめ本学教職員による寄付活

京と青森」という会報が毎月発行されており、今後本学の東京支部同窓会の案内や広告なども掲載されることになってい

動を昨年4月に開始し、建設に向け最大限の努力を重ねており、が、今後建設資金の一部を同窓生、在学生の保護者、企業など多方面からのご援助を仰がなければなりません。

同窓生の皆様には、7月中旬に書類を送付して寄付のお願いをしてい

るところですが、本事業の主旨をご理解いただき、温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

八戸工業大学学長

高橋 燦吉

八戸工業大学

同窓会会長

白川 直人

**'03学園祭**  
テーマ 『先進-可能性の海原へ-』  
10月18日 (sat)・19日 (sun)  
イベントが盛沢山!

**「注意下さい」  
迷惑電話相次ぐ**

最近、本学同窓会とは無関係の第三者から、電話による不動産売買や同窓会会員名簿購入の勧誘、個人情報収集のための問い合わせが増えており、本学同窓会事務局にも同窓生から苦情が寄せられています。ご家族の方にもお伝えいただき、同窓生が留守の際には勤務先、住所、電話、携帯電話、電子メールアドレスなどに関する問い合わせには特にご注意下さるようお願いいたします。

**同窓会事務局の連絡先（各種連絡先としてご利用ください）**

事務局名	TEL	E-mail
本部事務局 (学生部学生課)	0178-25-8027	dosokai@hi-tech.ac.jp
機械・産業機械工学科 (機械情報技術学科事務室)	0178-25-8010	dosokai - m@hi-tech.ac.jp
電気工学科 (電気電子工学科, 電子知能システム学科事務室)	0178-25-8020	dosokai - e@hi-tech.ac.jp
土木工学科 (シビル会事務局)	0178-25-8058	dosokai - c@hi-tech.ac.jp
建築工学科 (建築工学科事務室)	0178-25-8040	dosokai - a@hi-tech.ac.jp
エネルギー工学科 (エネルギー工学科, 生物環境化学工学科事務室)	0178-25-8050	dosokai - p@hi-tech.ac.jp